

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-96

学校名・団体名	高松市立屋島小学校
HPアドレス	http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimaHP/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	屋島未来フロントランナーへの道に挑む子ども
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>生活科・総合的な学習の時間について、上記の主題にサブテーマを「協同的に語り合い創造することを通して、主体的に学び続ける子どもを育てる」として研究に取り組んできた。</p> <p>① 地域とのかかわりを深め、子どもたちが疑問や知りたい・やりたいと思う年間計画を作成し、実践を積み重ねた。</p> <p>② 子どもたちが本気になってやりたいと願い、積極的に周囲とかわりながら思いを実現させようと取り組む姿が見られるようになった。</p> <p>③ 全ての研究授業を公開し、外部の指導者から指導を受けることで、校内で授業観を共有するとともに、取組を外部に発信できた。</p> <p>ただ、まだ教師がこうなしてほしいという願いを強く押ししてしまったり、児童が自分のよさを十分理解していなかったりすることや、語り合いが少人数ではできても全体の場では十分でないという課題も見えてきた。今年度は、この課題に対して研究を深めながら、平成27年10月29日・30日に本校で行われる全国生活科・総合的な学習協議会香川大会において全国からの参観者に成果を発表し、子どもたちが主体的に学ぶアクティブ・ラーニングの授業のあり方を発信したいと考えている。そして、今後「協同的な語り合いと創造（体験）活動」を教科の学習にも取り入れ、授業改善につないで、研究を継続していくことができるように見直しを図っていきたい。</p>	

1 活動時期

5月の研究構想・計画立案に始まり、月1回程度の授業研究を中心に研修を行い、2月に実践記録集を冊子としてまとめるまでの1年間。

2 内容

月	内 容	内 容	月	内 容
5	研究構想・計画立案 研究授業（全学級）	9 研究授業（全学年） 研究授業（特別支援学級） 研究授業（全学年）	11	5年 おもてなしガイドツアー 6年 劇公演 屋島総まつり
6	研究授業（2、3、4、6年） 研究校視察	10 5年 おもてなしガイドツアー 6年 劇公演 全国生活・総合的な学習研究協議会香 川大会授業	12	年間計画の見直し
7	研究授業（1、4、5年） 研究校視察 研修会		1	実践・まとめ
8	研修会		2	実践発表実践記録集作成
			3	引き継ぎ式 次年度の構想

- 研究授業は全て公開し、外部から指導者を招聘し指導を受けた。
- 研究会への参加や先進校視察を積極的に行い、参加報告会で共通理解を図ることで、授業改善や年間計画の見直しに努めた。
- 協同的な語り合いと豊かな創造（体験）活動を効果的に組み合わせ校外学習は60回、地域人材はのべ100人以上を活用して授業を行った。

＜1年＞ 繰り返し季節にかかわる中で見付けたことを、絵や言葉、身体表現、キャラクター等多様な方法で表し、交流を通して気付きを豊かにしていった。

＜2年＞ 12か所の町探検を繰り返し、訪問先の「いいな」を見つけて伝え合うことで屋島の町のよさを共有、再認識した。

＜3年＞ 地域の祭りを調べ、祭りに対する願いを聞くことをもとに、夏祭りに出店したり、秋祭りに獅子舞や神輿を創って参加したりしてみんなを笑顔にした。

＜4年＞ 屋島の自然や伝説等について体験したり、ガイドから話を聞いたりして見つけた屋島のよさを、地域の人や他の学年の人に紹介した。

＜5年＞ 屋島の活性化に向けて地域の旅行会社と協力し、屋島山上において4年で調べた屋島のよさを「おもてなしガイドツアー」として観光ツアーを企画、実践した。

＜6年＞ 屋島の歴史を題材にした演劇を地域の専門家とともに創り上げ、様々な場で発信することを通して屋島の活性化につないだ。

＜ひまわり＞ 地域の店から革細工の作り方を学んで制作することから、自分たちの店を開き販売することで、地域に積極的にかかわった。

- 語り合いでは板書やワークシート、座席等を工夫し、話しやすくするとともに、聞く力を育てることに重点を置いた。



↑【2年町探検】 ↓【3年祭りに参加】



↑【5年おもてなしガイドツアー】 ↓【6年演劇「扇的」】

3 成果

子どもたちは地域への愛着を深めるとともに、集団で語り合いながら探求していく姿勢が育ってきた。県の質問紙調査では「人の役に立つ人間になりたい」、「地域の歴史や自然に関心がある」、「グループで話し合いながら解決した」、「学級のみinnで協力してうれしかった」等の項目において平均よりも非常に高い結果が表れた。ガイドや演劇等に対して参加者から称賛の声が多く寄せられ、子どもたちは大きな自信を得ることができた。国や県の学習状況調査でも高い結果を示しており、生活科・総合的な学習での取組が学力向上にもつながっていると考える。また、全校集会で多くの子どもたちが挙手して意見を述べたり、休みの日に家族で屋島に登ったりと授業以外でも変化が見られ、子どもたちの生き方につながるキャリア教育としても有効であった。



【ひまわり 革細工の販売】

4 課題

今後も生活科・総合的な学習における授業改善の取組を教科に広げていくことで効果をさらに確かなものにしていきたい。児童の関心を高め、協同で語り合ったり創造（体験）活動を行ったりすることが学力向上につながる活動を継続していくために、子どもたちが主体的に学ぶ工夫を継続していかなければならない。